

ホスティング・ホームページサービス利用案内

新汎用コンピュータシステムを用いた高度な学術情報基盤の提供

赤坂 浩一[†] 針木 剛[†] 赤尾 健介[‡] 河原 達也[‡] 森 信介[‡] 秋田 祐哉[‡]

[†] 京都大学情報環境部 [‡] 京都大学学術情報メディアセンター

1 はじめに

本センターでは2008年12月に汎用コンピュータシステム（以下、汎用コンと略記）をリプレースいたしました。それに伴いまして、2009年4月1日より、学術情報基盤グループ(旧データベース掛)で提供する汎用コンを用いたサービスを一新し、学術情報基盤サービスとしてホスティング・ホームページサービスの提供を開始しています。本稿では、ホスティング・ホームページサービスのサービス内容と利用方法について説明します。

2 提供サービス紹介

ホスティング・ホームページサービスでは利用者の用途に応じてお選びいただける、4種類のサービスをラインナップとして取りそろえています（図1参照）。

2.1 ホームページサービス

共有サーバによる仮想ホスト機能を用いた独自ドメイン名によるホームページの公開及びメール転送を行う環境を提供します。

2.1.1 サービスの主な機能

- 汎用コン内に構築された VM 共有サーバでホームページ公開スペースを提供（20GB）
- 共有サーバの仮想ホスト機能を用いて独自ドメイン名の利用が可能
- SSL・PHP・CGI 利用可能
- CMS（コンテンツマネジメントシステム）利用可能



図1 サービスラインナップ

- 独自ドメイン名でのメール転送を利用可能
- データベース・ストリーミングのオプションサービス

注) 本サービスのメールサーバはメール転送のみを行います。メールプール機能やfmlなどのメーリングリスト管理プログラムとの連携は利用できません。

2.1.2 サービスのメリット

- ホームページ公開のためにサーバを用意する必要がない
- サーバの維持管理やセキュリティ対策などに労力・費用を必要としない
- 独自ドメインでのホームページ公開や転送用メールアドレス作成が可能
- 複数名でのコンテンツ更新が可能
- KUINS-IIの利用負担金が不要（ただしSSLなどを使用する場合は必要）

2.1.3 対象

原則として京都大学の教員が一員となっている

学術研究・教育等の組織・プロジェクト，及び京都大学の部局，学科・専攻，研究室等 (kyoto-u.ac.jp 以下のサブドメインを有する組織)．当該部局・組織の代表者または広報担当者 (京都大学の教職員) が本サービスの申請者となること．

2.1.4 利用例

- 研究室・部局で公開するホームページ
- コンソーシアムや COE などのプロジェクト用ホームページ
- 国際会議や学会などイベント用ホームページ

2.1.5 言語の利用

ホームページサービスでは PHP・CGI などの言語を利用した Web アプリケーションの公開が可能です．

本サービスでご利用いただける言語は表 1 に示す通りです．

2.1.6 オプションサービスの利用

ホームページサービスでは必要に応じて表 2 に示すオプションサービスが利用可能です．

2.2 個人向けホームページサービス

汎用コンのドメインにおける大型計算機システム利用者番号 (以下，利用者番号と略記) 名でホームページを公開する環境を提供します．個人レベルで申請可能な機能縮小版のホームページサービスです．

2.2.1 サービスの主な機能

- 汎用コン内に構築された VM 共有サーバでホームページ公開スペースを提供 (2GB)
- 公開用のディスクスペースとアクセス制限機能のみを提供

2.2.2 サービスのメリット

- ホームページ公開のためにサーバを用意する必要がない
- サーバの維持管理やセキュリティ対策などに労力・費用を必要としない
- KUINS-II の負担金が不要

表 1 ホームページサービスで利用可能な言語

(5月12日現在)

言語	バージョン	実行パス
PHP	5.1.6	/usr/bin/php-cgi
Perl	5.8.8	/usr/bin/perl
Python	2.4.3	/usr/bin/python
Ruby	1.8.5	/usr/bin/ruby

表 2 ホームページサービスのオプション一覧

オプションサービス種別	利用負担金の有無	
RDB サーバ	MySQL	無
	PostgreSQL	無
	Oracle	有
ストリーミング配信	Helix Server	有

2.2.3 対象

京都大学の教職員

2.2.4 利用例

- 個人レベルで公開するホームページ

2.3 メール転送サービス

独自ドメイン名によるメール転送サービスを提供します．任意のメールアドレスを作成しメールの転送先を管理できます．

2.3.1 サービスの主な機能

- メール転送環境を提供

注) 本サービスのメールサーバはメール転送のみを行います．メールプール機能や fml などのメーリングリスト管理プログラムとの連携は利用できません．

2.3.2 サービスのメリット

- 任意のメールアドレスを自由に作成し転送先メールアドレスを管理可能
- 汎用コンピュータシステムのドメイン名のメール転送をサポート
- 旧来から使用しているメールアドレスを転送アドレスとして継続利用できる

2.3.3 対象

原則として京都大学の教員が一員となっている学術研究・教育等の組織・プロジェクト，及び京都大学の部局，学科・専攻，研究室等 (kyoto-u.ac.jp 以下のサブドメインを有する組織)．当該部局・組織の代表者または広報担当者 (京都大学の教職員) が本サービスの申請者となること。

2.3.4 利用例

- 別サーバで公開中のホームページと同じドメインのメールアドレスを作成し，普段使用している電子メールへ転送する。
- 管理してきたメールサーバを廃し，スプールを持つ別ドメインのメールアドレスを転送先に設定して，今まで利用してきたアドレスをそのまま使い続ける。

2.4 VM ホスティングサービス

占有バーチャルマシン (VM) による独自ドメイン名のホスティングサービスを提供します。管理者 (root) 権限が付与されるため，自由なサーバ構築・運用ができます。ディスク容量やシステム資源 (CPU，メモリ) の増設など用途にあわせたカスタマイズが可能です。

2.4.1 サービスの主な機能

- 占有の VM (Xen を使用) 上で Red Hat Enterprise Linux 5 (以下，RHEL5 と略記) によるサーバ環境を提供
- 独自ドメイン名でサーバ環境を運用
- Web サーバ・メールサーバ (メールスプール有り) を利用可能
- 200GB のディスク容量
- 仮想ホスト利用可能
- SSL・PHP・CGI 利用可能
- CMS (コンテンツマネージメントシステム) 利用可能
- データベース・ストリーミングのオプションサービス
- VM 資源の増量などの提供機能の拡張にも対応

2.4.2 サービスのメリット

- 自前でサーバ用のハードを購入する必要がない (VM 単位でシステム資源を提供)
- ハード・OS 等の環境的な側面において，サーバの運用に必要な労力・費用を軽減できる
- 占有サーバとして管理者 (root) 権限が付与される
- 独自ドメイン名のネットワークサーバとして利用できる
- 占有サーバ内で複数の仮想ホスト・仮想ドメインを利用できる
- メールスプールを用意でき，メールアカウントも自由に作成できる

2.4.3 対象

原則として京都大学の教員が一員となっている学術研究・教育等の組織・プロジェクト，及び京都大学の部局，学科・専攻，研究室等 (kyoto-u.ac.jp 以下のサブドメインを有する組織)．当該部局・組織の代表者または広報担当者 (京都大学の教職員) が本サービスの申請者となること。

注) VM ホスティングサービスでは他の 3 サービスと異なり，占有 VM としてサーバ構築のための環境そのものを提供しております。そのため，本サービスを利用しサーバを運用するためには，ユーザ自身によってサーバを設定していただく必要がありますので，UNIX 系サーバについての知識が必要になります。

2.4.4 利用例

- 部局や学科・専攻・研究室などでネットワークサーバを運用し，Web 公開や電子メールを利用する。
- 特殊なソフトウェアのインストールが必要な Web サーバの運用 (例えば，ホームページサービスでは動作しない CMS など)
- 共同研究プロジェクトなどでのデータベース・アーカイブの構築や配信

2.4.5 オプションサービス利用・VM 資源増量

VM ホスティングサービスでは必要に応じて表 3 に示すオプションサービスならびに VM 資源増

表 3 VM ホスティングサービスの機能拡張

オプションサービス種別		利用負担金の有無
RDB サーバ	MySQL	無
	PostgreSQL	無
	Oracle	有
ストリーミング配信	Helix Server	有
VM 資源増量	ディスク (100GB)	有
	システム資源 (1 台)	有

システム資源 1 台は CPU : 2 コア, メモリ : 2GB

量による機能拡張が利用可能です。

2.5 各サービスの機能比較

ホスティング・ホームページサービスの種別による提供機能の違いは表 4 に示す通りです。

2.6 利用の範囲

ホスティング・ホームページサービスは、学術研究・教育等に関する情報発信・広報のために利用するものとします。

2.7 利用負担金

ホスティング・ホームページサービスの利用には、利用内容に応じて表 5~7 に示す利用負担金が必要になります。なお、利用負担額は、総額表示です。また、VM ホスティングサービスやホームページサービスでグローバル IP アドレスを利用する場合は、別途 KUINS 利用負担金が必要です。

3 サービス申請の流れ

3.1 申請方法

本サービスの利用申請は申請課金システムによる Web オンライン申請のみで受付しております。なお、申請課金システムにログインするには

SPS-ID (教職員 SSO-ID) または ECS-ID が必要です。Web オンライン申請は、以下の学術情報基盤サービス HP 内「利用申請について」からアクセスすることができます。

http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/whs/sinsei_flow.php

サービス申請から利用開始までの具体的な手順は図 2 の通りです。

3.2 仮想ホスト名 (ドメイン名) について

個人向けホームページサービス以外のサービスでは、利用申請時に仮想ホスト名 (ドメイン名) を指定していただけます。本サービスで利用いただける仮想ホスト名 (ドメイン名) は、原則的に

仮想ホスト (ドメイン) . 所属の部局のサブドメイン.kyoto-u.ac.jp

となります。仮想ドメイン名は任意の文字列で定めることができますが、必ず部局内です承が得られたものをご利用ください。(これ以外のドメイン名を希望される場合は、あらかじめ学術情報基盤グループまでご相談ください)

なお、仮想ホスト名 (ドメイン名) をネットワーク上で適用する際に、DNS 管理者へ登録の依頼を行います。KUINS が管理するサブドメインの DNS 登録は学術情報基盤グループが手続きを代行します。

3.3 専用の利用者番号発行について

ホスティング・ホームページサービスの各サービスを申請いただきますと、z59 で始まる本サービス専用の利用者番号が発行されます。この利用者番号は本サービス利用者のアカウント管理のためのものであり、これを用いてスーパーコンピュータをご利用いただく事はできません。スーパーコンピュータを利用される場合は、スーパーコンピュータ用に利用者番号 (利用負担金が必要) を別途取得してください。

4 サーバへの接続方法

4.1 FTPS による接続

Web サイトを公開するには、公開用のサーバに

表4 ホスティング・ホームページサービスの機能一覧

サービス名	VM ホスティングサービス	ホームページサービス	個人向けホームページサービス	メール転送サービス
システム	占有サーバ	共有サーバ	共有サーバ	共有サーバ
提供機能				
ハードウェア	VM 単位で提供	—	—	—
OS	RHEL5	RHEL5	RHEL5	—
Web サーバ	○	○	○	—
ディスク容量	200GB	20GB	2GB	—
仮想ホスト	○	○	—	—
SSL	○	○	—	—
CGI	○	○	—	—
PHP	○	○	—	—
アクセス制限	○	○	○	—
ログ閲覧・解析	○	○	—	—
メールサーバ	○	転送のみ	—	転送のみ
RDB サーバ	一部 有料オプション	一部 有料オプション	—	—
CMS	○	○	—	—
コンテンツ 作成支援	応相談	応相談	—	—
ストリーミング 配信	有料オプション	有料オプション	—	—
VM 資源増量	有料オプション	—	—	—

表5 ホスティング・ホームページサービス利用負担金

区分	利用負担額	単位
VMホスティングサービス	126,000 円/年	1 仮想マシンにつき
ホームページサービス	31,500 円/年	1ドメイン名につき
個人向けホームページサービス	12,600 円/年	1 アカウントにつき
メール転送サービス	12,600 円/年	1ドメイン名につき

表6 オプションサービス利用負担金

オプションサービス種別	利用負担額
データベース(Oracle)	63,000 円/年
ストリーミング(Helix Server)	31,500 円/年

表7 VM 資源増量利用負担金

区分	増量単位	利用負担額
ディスク	100GB につき	10,500 円/年
システム資源	1 台につき	100,800 円/年

注) システム資源 1 台は CPU:2 コア,メモリ:2GB

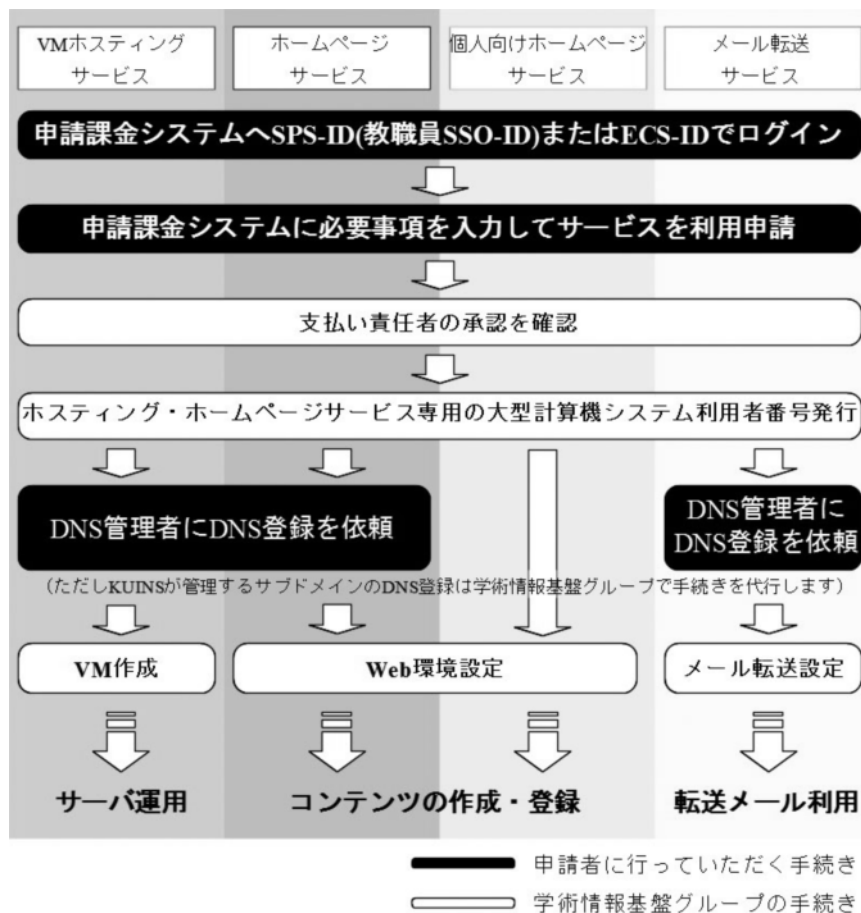


図2 サービス利用申請の流れ

Web ページの HTML ファイルや画像などの素材を転送（アップロード）する必要があります。また、メール転送やアクセス制限などの機能を利用する場合も、それぞれの設定ファイルをサーバへ転送しなければいけません。本サービスではサーバとのデータのやりとりを行う方法として **FTPS** による通信を利用します。

4.1.1 FTPS 対応クライアントのインストール

FTPS によるファイル転送を行うには、FTPS に対応したクライアントが必要になりますので、各自、使用されるパソコン端末等にクライアントソフトウェアをインストールしてください。

推奨するソフトウェアは **FileZilla** です。**FileZilla** のインストール方法は、以下の学術情報基盤サービス HP 内「FTPS によるサーバへのファイル転送」をご覧ください。

<http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/whs/filezilla.php>

4.1.2 接続アカウントについて

FTPS によるサーバへのファイル転送に利用するアカウントは、サービス申請時に使用された **SPS-ID** (教職員 **SSO-ID**) もしくは **ECS-ID** です。

また、Web コンテンツを複数の方で管理されたい場合は、サーバにアクセスできる **SPS-ID** (教職員 **SSO-ID**) もしくは **ECS-ID** を複数登録し、それぞれが所有するアカウントでファイル転送を行う事も可能です。ただし、実際にサーバにコンテンツをアップロードするスペースは共通の利用者番号 (**z59*****) で管理されますので、管理者として **ID** を登録されている人全員が転送された全ファイル进行操作できるため、注意が必要です。

4.1.3 データベースへの接続について

オプションサービスのデータベースサーバのうち、無料でお使いいただける **MySQL** と **PostgreSQL** は、初めから利用可能な状態になっています。これらのデータベースへ接続するアカウントは、利用者番号 (**z59*****) です。FTPS 接続と時と異なり、管理者が個々で持つアカウントである **SPS-ID** (教職員 **SSO-ID**) もしくは **ECS-ID** では接続できませんので、ご注意ください。

4.2 SSH 接続 (VM ホスティングのみ)

VM ホスティングサービスでは **UNIX** マシン環境そのものを提供するため、**SSH** (セキュアシェル) による接続を行い、サーバを直接操作することができます。また、**sudo** による管理者 (**root**) 権限が利用可能なアカウントでログインする事で、別アカウントの作成やサーバアプリケーションの追加などを自由に行う事ができます。使用されるパソコン端末等から **SSH** でサーバに接続するためには **UNIX** 系 OS の端末エミュレータや **PuTTY** や **SSH** 対応版の **Tera Term** などの **SSH** クライアントが必要です。なお、VM ホスティングサービスをご利用いただく場合でも、学術情報基盤グループから提供するファイルなどのやりとりは **FTPS** で接続するファイルサーバ経由で行います。よって **FTPS** 対応のクライアントも使用されるパソコン端末等にインストールする必要があります。

5 各種機能の利用と設定

5.1 サーバのディレクトリ構成

5.1.1 ホームページサービスの場合

ホームページサービスの場合、利用者ディレクトリは **logs**, **public_html**, **vhome** の3つのディレクトリが用意されています (図3参照)。このディレクトリは、サービスに必要なディレクトリですので、絶対に削除したり名前を変更したりしないでください。

public_html ディレクトリには、公開する Web コンテンツを置いてください。本サービスでは **CGI** スクリプトを置く場所も **public_html** ディレクトリとなっております。『**http://**申請された仮想ホストのドメイン名/』の **DocumentRoot** が、このディレクトリとなります。

vhome ディレクトリは、**PHP** プログラムなどか

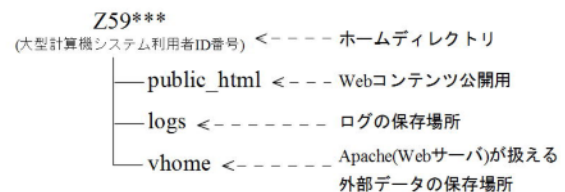


図3 ホームページサービスディレクトリ構成

ら動的にファイルを扱うための専用ディレクトリです。これは、利用者以外に Web サーバである Apache ユーザにも読み書きの権限が認められている特別なディレクトリとなっております。

なお、ホームディレクトリのフルパスは『/hostinghome1/z59***』となります。その他、必要に応じて利用者ディレクトリ配下に、ファイルやディレクトリを作成してください。

5.1.2 個人向けホームページサービスの場合

個人向けホームページサービスの場合、利用者ディレクトリには、あらかじめ public_html ディレクトリが用意されています。このディレクトリは、サービスに必要なディレクトリですので、削除したり、名前を変更したりしないでください。

public_html ディレクトリに、公開する Web コンテンツを置いてください。

http://www.users.iimc.kyoto-u.ac.jp/~z59***/ の DocumentRoot が、このディレクトリとなっております。その他、必要に応じて利用者ディレクトリ配下に、ファイルやディレクトリを作成してください。

5.1.3 メール転送サービスの場合

メール転送サービスの場合、利用者ディレクトリはホームディレクトリのみでホーム以下にディレクトリはありません。ホームディレクトリに転送アドレスを指定する.forward+ファイルをお願いいたします。

5.1.4 VM ホスティングサービスの場合

VM ホスティングサービスの場合、VM 上に構築した UNIX サーバそのものを提供しております。VM サーバにインストールされている OS は RHEL5 であり、ディレクトリ構造も Red Hat 系 Linux のものとなっております。

学術情報基盤グループとファイルなどのやりとりを行うための FTPS で接続するファイルサーバに関しては、利用者ディレクトリはホームディレクトリのみでホーム以下にディレクトリはありません。必要なファイル類はホームディレクトリに置かれます。

5.2 Web 環境設定

ホームページサービスでは.htaccess ファイルを作成する事により、ディレクトリごとに Web サーバの利用者個人設定を行っていただけます。また、個人向けホームページサービスでは、.htaccess ファイルでアクセス制限の設定のみ行っていただけます。

5.2.1 .htaccess ファイルで設定できる項目

ホームページサービスにおいて.htaccess ファイルで設定できる項目は下記のものとなります。作成した.htaccess ファイルは個人設定を適用したいディレクトリに置きます。

- Limit (アクセス制限に関する設定)
- AuthConfig (認証に関する設定)
- FileInfo (ファイル・言語・MIME に関する設定)
- Options (php_value と php_flag の機能設定が可能)

5.2.2 アクセス制限の方法 (IP アドレス制限)

IP アドレスを基準としてアクセス制限をかけたい場合は、以下のように.htaccess ファイルに制限する条件を書き、アクセス制限をかけたいディレクトリへアップロードします。

- 基本的にアクセスを拒否し、指定した IP アドレスからのアクセスのみ許可する

```
Order deny,allow
deny from all
Allow from 許可する IP アドレス
Allow from 許可する IP アドレス
...
```

- 基本的にアクセスを許可し、指定した IP アドレスからのアクセスのみ拒否する

```
Order allow,deny
allow from all
Deny from 拒否する IP アドレス
Deny from 拒否する IP アドレス
...
```

5.2.3 アクセス制限の方法 (Basic 認証)

Basic 認証によるアクセス制限を行う場合

は、.htpasswd という認証に用いるユーザ名とパスワードを対応させたファイルを作成した上で、.htaccess ファイルで.htpasswd ファイルの場所などの認証の条件を記述します。.htaccess ファイルは認証による制限をかけたいディレクトリに置きます。

●.htpasswd の書式

.htpasswd ファイルは「ユーザ名:パスワード」という形で以下のように記述します。

```
example1:FmDKsLmw8hSk2
example2:6kwwgnhfCFNw
...
```

.htpasswd ファイルには暗号化したパスワードを
用います。暗号化パスワードの生成は以下の URL
で行う事ができます。

```
http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/whs/make_pass.php
```

なお、作成した.htpasswd ファイルはpublic_html
ディレクトリ以外のインターネット上に公開さ
れていない場所に置きます。

●htaccess の書式

```
AuthType Basic
AuthName "By usercheck"
AuthUserFile /hostinghome1/z59***/.htpasswd の場所/.htpasswd
require valid-user
```

注)【z59***】の部分は利用者番号を書きます。
個人向けホームページサービスの AuthUserFile
はhostinghome1をhostinghome2に変更します。

5.3 ログの閲覧

ホームページサービスでは、logs ディレクトリ
に、Web サーバに関するアクセスログファイルや
エラーログファイルが保存されております。必要
に応じて参照ください。

また、アクセスログは毎日深夜に Webalizer によ
り解析され、以下の URL で結果をご覧いただけ
ます。

```
https://hps3.iimc.kyoto-u.ac.jp/webalizer/z59***/
```

解析結果のページはパスワード制限されてお
りますので、登録された SPS-ID (教職員 SSO-ID)

表 8 利用可能な CMS の動作条件

Web サーバ	Apache
データベース	MySQL, PostgreSQL
言語	PHP, Perl, Python, Ruby

もしくは ECS-ID でログインしてください。

5.4 CMS の利用

ホームページサービスでは、CMS をインスト
ールする事で、コンテンツの作成及び管理の作業
を簡単に行う事ができます。基本的には表 8 に示
す条件を動作環境としている CMS であれば利用
可能です。例えば、XOOPS や MovableType な
どが利用いただけます。

5.5 メール転送設定

5.5.1 .forward+ファイルの作成

ホームページサービスやメール転送サービスで
転送メールアドレスを設定する場合は.forward+
ファイルを作成し、利用者のホームディレクトリ
に置きます。

.forward+ファイルは「.forward+任意な文字
列」というファイル名で作成します。ここで、任
意の文字列が転送メールアドレスの@より左側
(メールアドレスの個人を識別するユーザ名)に
当たります。ファイルは 1 行に 1 アドレスずつメ
ールアドレスのみを記述し、行頭や行末に空白な
どを入れてはいけません。コメントを入れる場合
はコメント行に#を付けるか、文末にコメントを
() でくくって挿入します。ただし、文末に()で
くくるコメントは、日本語 (マルチバイト文字)
を利用する事はできません。

.forward+ファイルの作成例を以下に示します
(この例ではファイル名は『.forward+leader』と
なります)。

```
#leader@sample.kyoto-u.ac.jp 宛は Taro と Hanako に転送
taro@smp.kyoto-u.ac.jp(To Taro)
hanako@aa.kyoto-u.ac.jp(To Hanako)
```

また.forward+ファイルは以下の URL にあ
る.forward+ファイル作成ツールでも作成いただ

けます。

```
http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/whs/make_forward.php
```

.forward+ ファイルのパーミッション設定は 640 (rw-r----- : オーナのみ読み書き可, グループメンバは読み込み専用, その他はアクセス不可) に設定します。

また, 用途や転送先ごとに複数の転送メールアドレスを作成して使い分けたい場合は, 転送メールアドレス分だけの .forward+ ファイルを用意します。

5.5.2 学外のメールアドレスを転送先に指定する場合

学外のメールアドレスへ転送する場合は, スпамメールの転送を防止するために, KUINS で提供されているスパム判定済メールフィルタ機能を利用します。

スパム判定済メールフィルタ機能を利用する場合は, 以下の例の様に .forward+ ファイルで指定する転送先アドレスの「@」を「%」に変更し, @sc-filt.kuins.net を後ろに付け足したメールアドレスに書き換えます。

```
sanshiro%example.com@sc-filt.kuins.net
```

5.5.3 学内メールアドレスへのスパムフィルタ適用方法

学内のメールアドレスへ転送する場合で, スпамメールを受け取らないようフィルタリングするには, .forward+ ファイルの転送設定内容を以下の様に書き換えます。

```
"| /usr/bin/perl /usr/dpc/lib/sc-filt.pl 転送先のアドレス  
|| exit 75"
```

注) 上記の例はスペースの関係上 2 行に渡っていますが, 実際は 1 行で記載します。

5.5.4 連絡担当者用メールアドレス作成

ホームページサービスの連絡担当者用メールアドレスとして表 9 に記載された転送メールアドレスを作成し, 転送先に実務作業される管理者の方 (複数名可能) のメールアドレスを .forward+ ファイルで作成し転送設定しておいてください。

表 9 利用開始時に作成が必要な転送アドレス

「転送設定ファイル名」	用途
「.forward+webmaster」	連絡用アドレス webmaster@仮想ドメイン
「.forward+」	システムからの連絡用

6 おわりに

本稿では, 学術情報基盤サービスとして提供するホスティング・ホームページサービスに関して, サービスの内容と利用方法について説明しました。

なお, 本サービスの詳細・利用サポート情報・最新情報につきましては, 学術情報基盤サービスの Web ページにてご案内させていただいております。

```
http://www.iimc.kyoto-u.ac.jp/services/whs/
```

また, 本サービスの利用申請受付完了時に, 本サービスをご利用いただく上で必要な事項が記載された, 利用ガイドのドキュメントも送付させていただいておりますので, これらの情報も併せてご覧ください。